

画像診断シークレット 第2版

Radiology Secrets, 2nd Ed.



監訳：大友 邦，南 学
原著編者：E. Scott Pretorius,
Jeffrey A. Solomon

B5変型 頁724 図37 写真627
定価8,820円(本体8,400円+税5%)
[ISBN 978-4-89592-489-4]MEDSi刊

本書はシークレットシリーズのひとつであり、2000年に邦訳が出版された『画像診断シークレット』の第2版である。しかし、原著執筆陣は一新され、内容・写真もすべてが最先端のものとなり、また、近年急速に重要性の増した領域、すなわちPET、心臓核医学検査、乳腺に関する記載も大幅に増加するなど、いっそう充実した書となっている。

本書の特徴を要約すると以下である。

1. Q&A形式であるため、軽い気持ちでとりかかれ、時間のあるときに、わかりやすいところ、知りたい項目から随時読み進めていける。根気がない人にとっても、3行程度のQ&Aは非常に取っつきやすいと思う。

2. Q&A形式にて問題点が明確に提出され、かつ簡潔にわかりやすく回答されているため、重要点の把握と理解が非常に容易である。初心者がかきこんで押さえておくべきポイントが押さえられているのは当然であるが、少し勉強をした人誰もが知りたいと思う事項が、深い知識によって整理整頓して提示・回答されている点が本書の優れた点と思う。また、多くのQ&Aが症例と対応して提示されていることもさらに理解を容易にしてくれる。

3. Q&A形式教科書が陥りやすい短絡思考に

陥らない工夫が随所にされている。正直にいうと、私は個人的には、Q&A形式やハウツー形式教科書は、0か1の二進法の短絡的な思考回路を形成しがちであるためあまり好まないが、本書はこの例外である。本書は著者あるいは訳者のもつバックグラウンドの知識が幅広いためか、あたかもベテラン医師について指導を受けながら、興味深く学ぶようなスタイルとなっており、Q&A形式特有の短絡思考に陥らないために丹念な工夫がなされている。

4. 1927問のQ&Aにて当該領域をくまなく網羅、ポイントとなる点をすべてQ&Aとして取り上げているので専門医試験の前の知識の補強としても有用と考えられる。CTやMRIだけでなく、単純写真から血管造影、超音波所見も網羅されているので、研修医や医学生にとっても比較的良好な疾患も含めて、必要となる画像所見を確認できるのではなかろうか。

5. 設問に3段階の難易度が付されるなど、知識習得に緩急をつけレベルに応じた選択的な学習も可能となるように、構成にさまざまな工夫がなされている。巻頭に最重要事項を列記した「TOP 100 シークレット」、本文中に要点を整理して提示する「キーポイント」の存在により、国家試験対策などにも使いやすいく考えられる。

6. 索引がしっかりしており、早急に基本事項の確認が必要となった場合にも使いやすい。これは研修医・臨床医の日常診療における教科書として重要なポイントといえる。

一冊に2000近くの多岐にわたる事項が簡潔にまとめられ、上記のような多くの素晴らしい特徴をもつ本書を、日常臨床必携の書としてぜひお勧めしたい。